

平成 17 年度第 1 回石西礁湖自然再生協議会 議事概要

■日 時：平成 18 年 2 月 27 日（月） 13:30～16:30

■場 所：八重山支庁 2 階大会議室

■参加者：委 員：64 名

（内訳）個人 24、団体・法人 19、地方公共団体 15、国 6

傍聴者：8 名

報道関係：8 社

■議 事：

- （1）石西礁湖自然再生協議会（仮称）の設立について
- （2）石西礁湖自然再生協議会（仮称）における議論の進め方について
- （3）意見交換

■概 要：

（1）石西礁湖自然再生協議会（仮称）の設立について

○環境省、内閣府沖縄総合事務局、沖縄県より、石西礁湖自然再生に関するこれまでの取り組みについて説明が行われた。

○事務局より、設立趣旨、規約（案）について説明が行われ、規約（案）が承認された。これに伴い、協議会が設立され応募者全員が本協議会の委員として認定された。

（委員）

規約（案）第 3 条で対象区域とされている石西礁湖とは、どの区域までを含むのか。

（事務局）

一般的に、石西礁湖とは石垣島と西表島の間に広がる南北約 15km、東西約 20km のサンゴ礁海域であるが、石西礁湖自然再生を進めていく際には、石西礁湖に関連する海域及び陸域も含め対象としていくことが必要であると考えている。従って、対象区域は影響要因に応じて、フレキシブルに考えていきたい。

（委員）

設立趣旨の中に「高水温等による白化」という文言が挙げられているが、影響要因に応じて対象区域をフレキシブルに考えるとすれば、対象区域は非常に広範囲になるのではないかと。石西礁湖自然再生マスタープランを検討する際にも、ある程度、明確に範囲を決め、議論をしていったほうが実質的な議論ができるのではないかとといった意見があったように記憶しているが、その点について、事務局の見解を聞かせてほしい。

（事務局）

確かに地球温暖化を影響要因とすれば、対象区域は地球規模になるかもしれないが、この協議会では、対象区域を地球規模とすることは考えていない。今後、協議会では全体構想等を作

成していくが、その中で対象区域を決めることになっているので、協議会の場で対象区域を明確にしていきたいと考えている。

(委員)

規約(案)第16条には、協議会は寄付金を得ることができるがあるが、協議会として財布を1つ持つことを想定しているのか?それとも基金的なものを想定しているのか?

(事務局)

寄付金を得る場合には、その方法も含め、協議会で決めていきたいと考えている。

(委員)

出席委員の合意はどのような形でとるのか?

(事務局)

協議会で協議の上、決めていくことになる。

○規約に基づき、会長及び会長代理の選出が行われ、会長には土屋誠委員が、会長代理には吉田稔委員が選出された。

(2) 石西礁湖自然再生協議会(仮称)における議論の進め方について

○事務局より、石西礁湖自然再生協議会の組織(案)、会議のルール(案)、全体構想の作成方法(案)について説明が行われた。

(委員)

全体構想骨子案の作成が平成18年3月頃の第1回作業グループでとあるが、時期的に早すぎるのではないか。まずは部会を設置すべきではないか。

(事務局)

実際に全体構想に関する文書を作成するに当たり、自然再生推進法において記述することとされている項目について、どのような内容を書いていくべきかといった点を、まず、骨子案という形で書き出していきたいと考えている。また、部会についても、本日の協議会でこのような部会が必要ではないかといった意見があったのであれば、それについて協議していただき、設置していけばいいのではないかと考えている。

(委員)

全体構想作成作業グループの設置運営にコンサルタント等が関わるのか?

(事務局)

現時点で、作業グループに特化して、コンサルタントを雇い、作業を行うことは考えていない。

(委員)

部会の設置については、全体構想において役割分担を明らかにしていく中で議論するのか?

また、設置時期はどのように考えているのか?

(事務局)

全体構想において役割分担を決めるまで待つ必要はなく、専門的な検討が必要な場合には、随時部会の設置を検討し、設置することとしたいと考えている。

(3) 意見交換

○各委員の「石西礁湖への思い」を共有することを目的として、意見交換が行われた。意見交換では、まず、以下の2つのテーマについて意見を書いてもらい、その意見を①保全管理の強化、②持続可能な利用、③サンゴ群集の修復、④普及啓発、⑤調査研究、⑥その他の6つのカテゴリーに分けられたボードに各自で貼り付けてもらった。その後、それぞれの委員が書いた意見を見ながら、委員の関心が高かった意見を中心に意見交換が行われた。

テーマ1： 石西礁湖自然再生の目指すもの～あなたにとっての石西礁湖像は？～

テーマ2： テーマ1のために最も重要と考えること（具体的な対策）

①保全管理の強化

■テーマ1：豊かなサンゴ礁生態系

■テーマ2：生活排水・赤土等対策

(委員)

サンゴ礁のみならず藻場等、昔あった原風景の中に石西礁湖のイメージが出来たら良いと思う。環境対策としては、まず一人ひとりが出来ることから始めるのが良い。

(委員)

生活排水については石垣市の方で取り組んでいる。また、陸と海の開発規制が必要である。農地からの赤土については、生活がかかっているなので、それを応援するようなことも必要である。

(委員)

石垣市が下水道整備をしても接続していない家庭が多い。下水道事業の計画自体もないところもある。海を守ることに、是非啓発してもらいたい。

(委員)

波照間島では、貯水池が農地からの赤土を貯めており、海岸の汚れがほとんどない。開発行為については厳しい規制がかけられていることを勘案すれば、農地からの赤土対策についても考え方を考える時期に来ていると思う。

(委員)

赤土等流出防止条例に基づき、農地においても緩勾配にしたり、沈砂池を設置したりといった水質保全対策事業をやってきており、今後もこれを推進していきたい。

②接続可能な利用

■テーマ1：60年代のサンゴ。スゴカッタ

■テーマ2：航路も含めて検討が必要。

(委員)

小さい頃、船で2時間近くかけて石垣に往来したが、その当時は潮の干満により、船の時間が決まっていた。ちょっと時間が遅いと、本当に浅瀬に乗り上げるんだというようなことも含め、サンゴ礁もゆっくり見ながら、時にはカメが泳いでいる姿も見ながらの往来であった。子供心にサンゴはすごいと思った。また、竹富町民からすると石西礁湖は生活航路としても重要であり、自然再生の際にはそのあたりも含めて検討してもらいたい。

■テーマ1：持続的な利用（漁業・ダイビングなど）

■テーマ2：利用調整のための話し合いの場を作る

(委員)

漁獲量が減少しているという現実があり、ダイビング、漁業についてはエリア調整・利用調整を行うための場が必要である。

■テーマ1：人が安心、快適に楽しめる

■テーマ2：エリアを分ける。(ゾーニング)

(委員)

海外では行政が設置した定置杭や定置ブイを中心にダイビングや海遊びをする場所が設定されており、安全・確実に遊ぶことができる。また、観光客がサンゴを踏んでしまうといったことに対しても、そろそろブレーキをかけても良いのではないかと思う。

③サンゴ群集の修復

■テーマ1：10年前までは豊かなサンゴ礁。しかし魚類は貧弱だった。

■テーマ2：サンゴ礁らしい生態系への再生の努力

(委員)

267km²の対象海域のうち、1997年時点で、サンゴ礁の分布量は面積換算で16.1km²と意外に少ない。魚類はその当時から異常に少なかった。石西礁湖はそのまま放っておいたら、あと15~16年でなくなってしまうのではないかと、そのくらいの危機感を持って再生の試みをスタートした。これは、サンゴ礁の生態系が、少なくとも15年前の段階で、決してサンゴ礁生態系として機能していないことを意味している。本来だったら基礎生産者のサンゴがベースになって大きな魚まで繋がっていくわけだが、沖縄本島等でもそうだが、復帰直後から漁獲量が相当減っている。その辺もある意味でバランスを欠いた状況になっている。個人的な意見だが、サンゴを増やせばいいというだけではなくて、南の島の基礎生産者としてのサンゴをきちっとして、そして、大きな魚まで含めてサンゴ礁の生態系を形づくっていきけるような再生を試みたいと思っている。

(委員)

大学で魚類を研究した時に、益田一さんが撮影した有名な大量な群れの写真を見せてもらったことがあり、それが石西礁湖の写真であると聞いた。多分、70年代だと思うが、ヒフキアイゴが数百の単位で出てくる写真であり、私の石西礁湖の印象というのは、どうしてもそうい

う印象がある。やはり、自分の目でそれを一度見てみたいと思い、参加した。

④普及啓発

■テーマ1：空から見えるサンゴ礁

■テーマ2：環境教育の充実

(委員)

飛行機で石垣空港の方へ下りる時、飛行機から下を見ると、非常にきれいな石西礁湖が見えるが、その時にサンゴも見えるようなイメージを目指したい。そのためには、子供だけでなく、大人も含めて環境教育を充実させる必要がある。

⑤調査研究

■テーマ1：人と自然の健全な共生システム

■テーマ2：包括的な環境モニタリング（何が原因でどのように変わってきているか）

(委員)

サンゴ礁に対するストレスは人間が与えている。特に石西礁湖については、サンゴ礁と人間の生活がすぐ近くにある。この対策についての戦略を、この協議会の場で論議していく必要があると考えている。そのためには、包括的な環境モニタリングにより、因果関係のデータを揃えておく必要がある。

■テーマ1：多様で脆弱なサンゴ礁にどう人の活動が適応できるかを考えていく。

■テーマ2：歴史・文化・経済といった側面からまず石西礁湖再生事業の理念を定める。そのための人文・自然科学的な情報を収集する。

(委員)

環境モニタリングに加えて、人文・自然科学的な情報を収集していったら良いのではないか。それにより、石西礁湖が石垣島もしくは八重山地方でどのような捉え方をされてきたのか、今後どういったものとして石西礁湖を扱っていくか、多様で脆弱なサンゴ礁に人の活動はどのように適応できるかということが、考えのヒントを出してくれるのではないか。

⑥その他

■テーマ1：「海の森」という源流を支えるゾ

■テーマ2：石西礁湖（南西諸島）を世界遺産に！

(委員)

サンゴがいっぱいある八重山諸島は、海の森なんだということを聞き、日本国民にはそこを支える責任があると考え、「支えるぞ」ということを書いた。石西礁湖の問題を、石西礁湖に関わる人々だけで解決するのは非常に大変だと思う。多様な人たちにこの事実を知ってもらい、それをエコプライド、エコロジカル、エコノミカルに支えることを考えたい。エコノミカルというのは、サンゴ礁に影響を与えるような生活スタイルを改善した結果、農業の収益が下が

ったり、下水道につなぐ負担費が増加した時には、その差額分を中流、下流に住む人たちでサポートできないかという意味である。サンゴ礁を守れば、そこに人々は行きたいと思っている。行った時に、きれいなサンゴ礁が蘇っていれば、ありがたい気持ちを込めて、基金へ寄付するのではないと思う。もう1つは、南西諸島全体を世界遺産にということが言われているが、もし、石西礁湖を蘇らせる仕組みを作ることに成功したら、他の島々でも、そのやり方を共有して、南西諸島全体の世界遺産登録がまた一歩進むということになる。それを制約と考えるのではなく、地域の経済発展や就労機会が増えるといった新たな枠組みへの変化につなげたい。
(委員)

協議会でマグネットステッカーを配布したが、これは昨年11月に国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターで開催した子供ワークショップでの成果である。家庭の冷蔵庫に貼って頂き、台所がサンゴ礁に繋がっていることを意識してもらいたい。

(4) その他

- 事務局より、今後のスケジュールとして、第2回目協議会は平成18年5～6月を目処に開催したい旨の説明が行われた。また、全体構想作成作業グループのメンバーは3月10日を目途に募集する旨の説明が行われ、閉会した。